

# 『上水記』とは

『上水記』は、玉川上水開削からほぼ140年後の寛政3年(1791)、徳川幕府普請奉行上水方石野遠江守いしのとおとうみのかみ広通ひろみちによってつくられた、江戸上水の幕府公式記録(主として、神田・玉川上水の建設記録)です。天明8年(1788)に起稿し、3年がかりで3部作成されました。

青色の表紙に和綴じで10巻の構成となっており、1部は時の將軍いえなり11代家齊公に献上し(国立公文書館内閣文庫蔵、欠本あり)、もう1部は老中松平定信に進呈(所在不明)、残りの1部は上水方役所の保存用に置かれ、「上水方のみちしるべ」にしたと伝えられています。

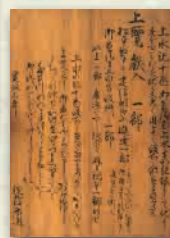
明治維新により上水の管理も明治政府、東京府に移管され、上水方の『上水記』は東京府土木課から水道局に引き継がれ、現在、東京都水道歴史館に保管されています。貴重な江戸の上水史料として、昭和52年(1977)4月5日、東京都指定有形文化財(古文書)の指定を受けました。現在、全巻が残されているのは東京都が保管しているこの1部のみです。

## 上水記展

本年の上水記展では【『上水記』の著者・石野広通】をテーマに、幕府の官僚として『上水記』を著した石野広通という人物について、その歌人としての活躍も含めて紹介します。恒例の『上水記』一般公開では、今年も実物を展示。なかでも第2巻の「玉川上水水元絵図并諸梓図」は、多摩川に造られた羽村取水堰を縦135.5cm×横514cmの大紙面に精緻かつ鮮やかに描いたもので、一見の価値がございます。ぜひこの機会にご覧ください。



『上水記』第5巻  
溜池付近の樋線図



『上水記』箱書  
(石野広通自筆)

## 水道歴史展

『上水記』の公開に合わせて「水道歴史展」を開催いたします。昨年、東京都水道局は12月1日を「東京水道の日」に制定しました。明治31年(1898)のこの日、淀橋浄水場から神田・日本橋方面に初めて通水が開始され、東京の近代水道が始動しました。今回は東京の近代水道成立における立役者の中島鋭治博士や外国人技師らを紹介し、水道の歴史に思いをはせていただきます。



淀橋浄水場沈澄池築造工事  
(明治28年頃)



淀橋浄水場の生みの親  
中島鋭治博士\*

※「中島工学博士記念 日本水道史」より

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため  
ご理解とご協力をお願いします

以下に該当される方は、ご来館をお控えください。

- ・37.5度以上の発熱、咳・咽頭痛などの症状のある方。
- ・過去2週間以内に感染が引き続き拡大している国・地域へ渡航された方。
- ・マスクの着用をされていない方。

上水記展・水道歴史展 会場では以下の取組みを行います。

- ・同時入場者数を10名までとします。
- ・滞在時間を60分までとします。
- ・会話はお控えください。
- ・順路に沿った見学をお願いします。
- ・学芸員による展示解説、当日のレファレンス(ご質問対応等)は行いません。



YouTubeにて  
展示解説を動画で公開!  
10月31日(土)スタート!

「上水記展・水道歴史展」  
展示パネルを継続公開します

- 11/10(火)~23(月・祝)「上水記展」  
場所: 東京都水道歴史館 1Fラウンジ
- 11/25(水)~12/20(日)「水道歴史展」  
場所: 東京都水道歴史館 1Fラウンジ
- 2021/1/6(水)~31(日)「水道歴史展」  
場所: 東京都水の科学館  
1F アクア・ショーケース  
(東京都江東区有明3-1-8)  
<https://www.mizunokagaku.jp/>

★ 館内の機能・サービスを一部制限しています。詳細はホームページをご覧ください。